

# 膜厚計 SWT-9000

操作マニュアル

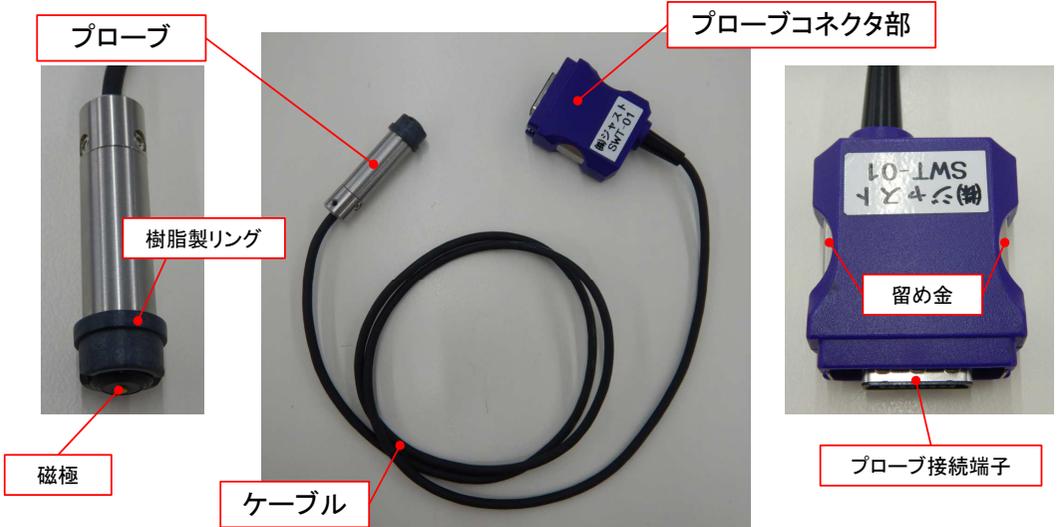
# ① 収納ケース内容



# ②-1 各部の名称(本体)



# ②-2 各部の名称(プローブ)



# ③ セットアップ



## ④ 電源の入れ方



## ⑤ プローブの持ち方



プローブの樹脂製リングの上部を写真のように持ち、測定対象物表面に垂直に、素早く、静かに先端の磁極を押し当てます。  
「ピッ」と音がして測定値が表示部に表示されます。音がしない場合は、5～7cm離してから再度測定します。

※付属のプローブ(FN-325)は、鉄材・非鉄材のモードが自動で切り替わり、画面右上に表示されます。電源ONの際「自動判別モード」であることを確認して下さい。

## ⑥-1 ゼロ調整

可能であればゼロ板は実際に測定する素地と同じものを用意することが望ましい。(測定精度が向上するため)  
用意できない場合は付属のテスト用ゼロ板で行い、FN-325プローブの場合は、鉄材・非鉄金属両方とも調整します。



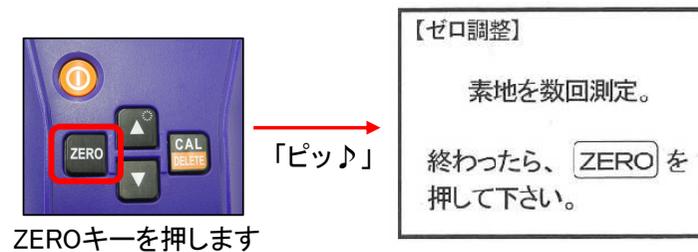
付属テスト用ゼロ板(鉄材)



付属テスト用ゼロ板(非鉄金属)

## ⑥-2 ゼロ調整

1. 電源を入れ、測定画面にします。
2. 「ZERO」キーを押してゼロ板を10回測定します。(測定の度に平均値が表示されます)
3. プローブを空中で保持し、「ZERO」キーを押すと測定画面に戻り、ゼロ調整完了。(1～3の手順を鉄材・非鉄金属各々行います。)
4. ゼロ板を数回測定し、数値がゼロ付近であることを確認する。



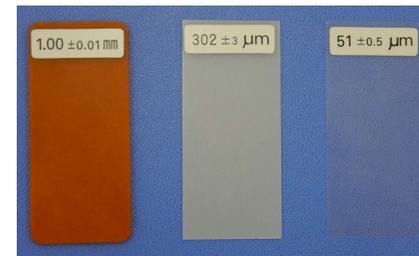
※調整中にゼロより掛け離れた数値を測定した場合は、「CAL・DELETE」キー+「▼」キーを押すと、直前の1データを削除できます。

## ⑦-1 標準調整(全体の流れ)

1. 「ゼロ調整」に使用した「ゼロ板」を用意する。
2. 測定する皮膜の厚みと同じかやや厚めの「標準厚板」を「ゼロ板」の上に乗せます。
3. 「CAL/DELETE」キーを押します。
4. 標準調整の画面になったら10回測定します。  
(測定の度に平均値が表示されます)
5. ▲または▼キーを押して、数値を標準厚板の厚さに合わせます。
6. 「CAL/DELETE」キーを押し、画面左上の「標準調整」の表示が消え、測定モードに戻ります。
7. ゼロ板上の標準厚板を数回測定し、表示された厚さ近辺であればOK。

## ⑦-2 標準調整

1. 「ゼロ調整」に使用した「ゼロ板」を用意する。
2. 測定する皮膜の厚みと同じかやや厚めの「標準厚板」を「ゼロ板」の上に乗せます。



「標準厚板」



「ゼロ板+標準厚板」

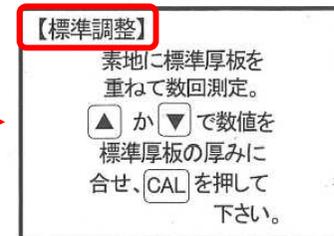
## ⑦-3 標準調整

3. 「CAL/DELETE」キーを押します。
4. 標準調整の画面になったら10回測定します。  
(測定の度に平均値が表示されます)



「CAL/DELETE」キー

「ピッ♪」



測定の度に「ピッ」と鳴り、平均値が表示されます

※標準厚板より掛け離れた数値を測定した場合は、「CAL・DELETE」キー+「▼」キーを押すと、直前の1データを削除できます。



測定された平均値。▼または▲キーで標準厚板の厚さに合わせます。

「ピッ♪」



「CAL/DELETE」キー押すと「ピッ」と鳴り、左上の「標準調整」の表示が消え、測定モードになります。

5. ▲または▼キーを押して、数値を標準厚板の厚さに合わせます。
6. 「CAL/DELETE」キーを押し、画面左上の「標準調整」の表示が消え、測定モードに戻ります。
7. ゼロ板上の標準厚板を数回測定し、表示された厚さ近辺であればOK。

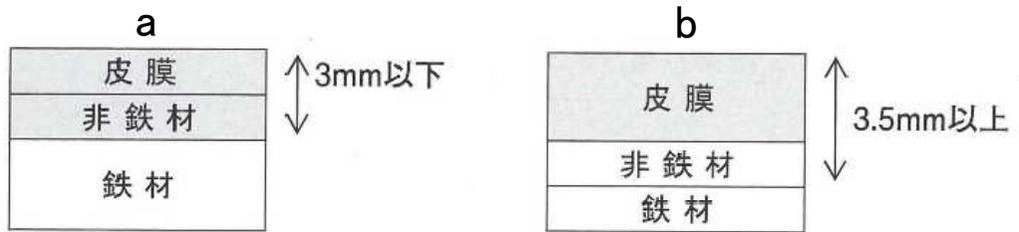
### ⑧ 測定終了時(電源の切り方)



※電源を切った後も「標準調整値」は記録されています。

### ⑨ 測定時の注意点

- ・皮膜と鉄材素地の間に、非鉄金属がある場合。
  - a.非鉄金属と皮膜を合わせた厚みが**3mm以下**の場合  
→**非鉄金属と皮膜を合わせた厚さを鉄材モードで測定**します。
  - b.非鉄金属と皮膜を合わせた厚みが**3.5mm以上**の場合  
→皮膜の厚さを**非鉄金属モード**で測定します。



### ⑩ その他の機能

- ・連続測定モード
  - ・分解能の設定
  - ・オートパワーオフ機能
  - ・バックライトの設定
- 上記の他にも機能があります。詳しくは付属の取扱い説明書を参照して下さい。